

全国協議会 ニュース

2020年2月1日発行 第332号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

骨髓・さい帯血バンク議員連盟総会開催 野田聖子会長「ドナーに感謝」

2019年12月12日（木）参議院議員会館で議員連盟総会が開催されました。会長の野田聖子衆議院議員から超党派による議員連盟設立の経緯、ドナー登録意思の継続についてふれる挨拶があり、会議の中で「ドナーに感謝」の言葉がありました。

(写真提供：堀内詔子事務所)



総会には、議員連盟から野田聖子会長、浜田靖一副会長、堀内詔子議員等の議員が、また関係機関・団体からは、厚生労働省、日本骨髓バンク、日本赤十字社、全国協議会等の出席がありました。

堀内議員が司会をされ、野田会長の挨拶の後、厚労省から「造血幹細胞移植の現況と行政の取り組みについて」報告がありました。野田会長から「ドナー登録の年齢制限について」質問があり、「海外は年齢を下げる方向。若いドナーの方が成績が良い」、「若いドナー登録者をどう増やしていくかが課題」、「ドナー休暇制度の導入など、企業への働きかけも推進している」と厚労省等から説明がありました。更に「ドナーにはどんなお礼をしているのか」との質問があり「私（梅田）はドナー体験者で、25年前に2歳半の男の子に提供した。日本骨髓バンクのドナーは移植患者さんと手紙の交換ができる（当時は一回のみ。現在は二回。）が、ご両親から、ぐったりしていた子どもが元気になって、今病院のベットの上でピョンピョン跳ねているとの手紙を頂いた。この手紙は私の宝物に

なっている。日本骨髓バンクから置時計を頂いたが、ドナーは患者さんが元気になることを望んでいる。」と話しました。会長からは「ドナーの方に感謝します。」とのお言葉を頂きました。

(副理事長 梅田正造)

会議の冒頭、野田会長からは、「27年前に大谷貴子当協議会顧問との出会いから、超党派による議員連盟を設立した。各地ではボランティアのマンパワーがなくなってきているようだが、人が頼りの骨髓バンク制度である。登録の持続可能性を追い求めて行かなくてはならない」との挨拶がありました。

会議では厚労省からの報告に続いて、各団体からのヒアリングとして日本赤十字社及び日本骨髓バンクからの状況報告があり、当協議会からは患者救済とQOL（生活の質）の向上をテーマとして2点の提言をおこないました。

1点目として、行政としてがん患者の妊孕性温存助成制度の拡充について、この制度は苦しい治療に立ち向かう患者にとっては、治療後の希望の光であることから、全国各地において整備されるよう支援をお願いしました。

また、2点目として、若年者の登録

拡大に向けた若者からの提言として、コロンブス（医療・デザイン・ビジネスの各専門性を活かし、人に寄り添った医療の発展をデザインしている大学生等の有志が結成した団体）による若年層登録者増加につながるオンライン登録経路設計の提案を紹介し、登録書類記入のオンライン化と、スワプ検査（口腔粘膜を綿棒で採取し、郵送して白血球の型HLAを検査する方法）による登録の推進をお願いしました。

特に若年者が集う大学祭などにおいて、献血車に頼らなくても骨髓バンクの啓発と登録推進をおこなうことが出来るよう、スワプ登録推進と予算付けをお願いしました。

会議終了後には、議連の委員からはスワプ登録の検討について事務方へ指示があり、他の委員からは、次回の総会ではコロンブスから直接意見を聞いてはどうかといった提案がありました。さらには当協議会に対して骨髓バンク設立から長い時間も経過し、状況も変わってきていることから、ドナーと移植患者さんの対面について提案をしてはどうかといったご意見もいただきました。

対面については国では慎重論が強い中なので、当協議会としては関係者にご意見を伺うなど、検討していきたいと思えます。（理事長 田中重勝）

骨髓バンクの最新情報をお知らせする

🔍 骨髓バンク NOW

（MONTHLY JMDP(1月15日発行)より抜粋）

■日本骨髓バンクの現状(2019年12月末現在)

	11月	12月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,904	3,218	527,221	818,469
患者登録者数	232	219	1,955	58,305
移植例数	117	79	—	23,947

■12月の区別別ドナー登録者数

献血ルーム／648人、献血併行型集団登録者／2,470人、集団登録者／37人、その他／63人

■12月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 5,328人／20代 82,326人／30代 139,248人
40代 223,747人／50代 76,572人

■12月の20歳未満の登録者 353人

■12月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：858件

(注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

箱根駅伝「骨髓バンク」のノボリで応援 選手・患者さんへ思いが届くよう

「第96回東京箱根間往復大学駅伝競走」が1月2日・3日の2日間にわたって開催され、今年も全国協議会のボランティア以外にも、プルデンシャル生命保険株式会社様の283名もの社員・ご家族の方々が寒い中ご参加くださり骨髓バンクの普及啓発活動に大変なご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

この活動は、関東学生陸上競技連盟のご理解のもと、箱根・宮ノ下商店街の箱根駅伝応援実行委員会の皆さま、読売新聞小田原中央サービスセンターの皆さま、鈴廣蒲鉾株式会社様はじめ多くの方々にご協力いただいております。



【田町】

2020年、令和になって初めての箱根駅伝が、往路1月2日、復路3日に開催されました。

白血病などで骨髓移植治療のため骨髓バンクで適合するドナーを待っている患者さんは、お正月も帰宅できずにひとり病室で過ごさなければなりません。そんな患者さんが見ているであろう駅伝中継のテレビ画面に「骨髓バンク」のノボリを映して元気付け、応援してるよとメッセージを送るために、箱根駅伝沿道応援が2003年から始まりました。2006年からプルデンシャル生命保険株式会社の社員の方々もボランティアとして協力してくれ、現在では駅伝コースの沿道各所で300本以上のノボリを立てて応援し、テレビ画面にも多く映ることができています。東京・千葉・埼玉のボランティアは、日比谷通りから第1京浜に入る芝5丁目交差点で毎年往路復路ともノボリを持って応援します。今年も、往路15名、復路25名が大声で声援を送りました。両日とも天候に恵まれあまり寒くなくお正月気分の街並みから、熱気あふれる駅伝コースへ集合します。往路はスタート直後の5km地点なので選手が一团となってアツという間に通り過ぎ、一瞬の間の応援です。翌日の復路は、最終10区でゴール直前の死力

を尽くしたデットヒートが繰り返されます。先頭は青山学院大学のグリーンのウェアが走り抜け、2位の東海大学と3分の差をつけて2年振り5度目の総合優勝を飾りました。応援の途中にもボランティアの仲間から「ノボリがテレビに映ってるよ！」と連絡が入り、今年も患者さんにエールを送れたことを感謝し帰路につきました。競技を伝えるテレビ番組でも沿道の赤い「いのちのタスキリレー骨髓バンク」のノボリが映っていて、来年も続けていきたいと強く感じました。

(東京の会 若木換)



【宮ノ下】

昨年10月に発生した台風19号の甚大な被害により、不通となっていた国道138号線は年末にやっと通行止め解除、箱根登山鉄道は運休中などから、今年は箱根駅伝応援実行委員会の皆さまのブースの一角をお借りしての活動だけとしました。沿道の応援の方も半分くらいの印象でした。それでも「毎

年お疲れ様」と募金をしてくださる方、チラシを受け取ってくださる方が沢山いらして感謝です。選手の名前をコールして声援を送る「宮ノ下方式」の応援はいつもより声そろってそれぞれが大きな声で声援を送りました。箱根の一日も早い復興をお祈りします。



【小田原】

大手前交差点付近では、今年も読売新聞小田原中央サービスセンターの皆さまがドナー登録を呼びかけるチラシやティッシュを配っていただきました。ノボリをもってチラシを配りながら沿道を移動していると、募金箱をもっていないのに「はい」と、募金を握りしめて渡してくださった方がいらっしゃいました。「もう登録できる年齢じゃないし」と、骨髓バンクの事をよく知っているかたも多くいらっしゃいました。宮ノ下とは逆に小田原はいつもより人出が多かったようです。



加藤弦理事 ありがとうございました



当協議会理事
加藤弦さん（北海道骨髓バンク推進協会所属）が2019年12月にご逝去されました。

2009年から3期連続・6年間理事を務められ、「白血病と言われたら」の編集にもご尽力いただきました。2019年7月に理事に再任され今後のご活躍を期待されていたところで、ご冥福をお祈りいたします。

はとの会 保健文化賞を受賞



(右：榎見昭夫さん)

受賞に際して

この度、第71回(2019年度)保健文化賞を受賞いたしました。この賞は第一生命保険株式会社主催、厚生労働省、朝日新聞厚生文化事業団、NHK厚生文化事業団後援の、70年の歴史を誇る由緒ある表彰で第60回の表彰には骨髄バンク設立に奔走した大谷貴子さんが選ばれています。今回の受賞は石川県健康福祉部健康推進課の推薦によるもので当会の受賞理由として次の活動が評価され紹介されました。「平成2年の設立以来骨髄移植のドナー登録増進を図るため、職域での集団登録会や献血ルームでの受付・説明、啓発の為の語りべ講演会、映画・芝居の上演、マスコミへのPRなどを続け、骨髄移植の啓発に貢献している」(贈呈式・祝賀会パンフレットの紹介文) 当会の受賞が全国の骨髄バンクボランティアの方々の励みになれば幸いです。

12月17日(火) 贈呈式祝賀会

贈呈式と祝賀会には当会より榎見・川下・大谷内の3名が出席しました。贈呈式は厳かな佇まいの明治記念館「曙の間」で午後5時から行われ厚生労働大臣賞・第一生命賞、朝日新聞厚

生文化事業団賞・NHK厚生文化事業団賞として、表彰状、感謝状、目録、記念品が主催後援側出席者から受賞者一人一人に授与されました。続けて祝賀会となり他表彰団体参加者と一期一会の対面とはなりますが和気あいあいとした雰囲気の立食パーティーで行われお互いの活動説明や苦勞話で盛り上がり名刺交換などをし、ひとときの懇親でしたが嬉しい時間を過ごしました。

終了後は帝国ホテルに宿泊、一流ホテルらしい雰囲気を充分味わい、翌朝には豪華なバイキング形式での朝食と会場の大きさに圧倒されました。(2名は18日朝解散)

12月18日(水) 天皇皇后両陛下に拝謁

午後1時第一生命本社本館集合、今も大事に保全されているマッカーサー室を見学、終戦後GHQが日本統治の本部として第一生命ビルを接収したいきさつを聴き先人達の占領時の苦難に思いを馳せ感慨深いものでした。

次いで皇居参内、宮内庁担当者の案内で見学後、天皇皇后両陛下が現在お住まいの赤坂御所へ移動、午後4時より拝謁を賜り陛下より労いのお言葉を賜った後、一人一人の前に進まれ活動説明をお聞きになられました。

私は前日に池江選手の退院のニュースが有り池江選手の件で登録が驚異的な数字になった事、私達活動ボランティアも安堵している事、若年層の登録がまだまだ少なく更なる努力が必要な事などを説明しました。両陛下も池江選手の退院をご存知らしくうんうんと頷いておられ、皇后様からは励ましのお

言葉をかけて戴きました。一人一人に声をかけられる優しい、見聞きしているお人柄そのままに予定時間をかなりオーバーしての拝謁に感動しました。今日までの苦勞が報われた思いと更なる努力を心に刻み帰路に着きました。

(いしかわ骨髄バンク推進・はとの会 榎見昭夫)

中野中学校の生徒さん来訪



12月20日(金)中野区立中野中学校の2年生6名が社会貢献活動調査として全国協議会に来られました。

医療に興味があり、当協議会を調査先に選んだとの事です。やりがいから活動の成果や続けていくための問題点は? など事前学習から様々な質問を用意してやってきました。

骨髄バンクや献血の必要性を知り、命やほかの人の力になる事を考える機会になってくれたらうれしいです。

生徒さんから感想文をいただきましたので紹介します。

拝啓
年の瀬も押し寄せ、寒さの身にしみる季節となりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。過日は、ご多忙の中、私方の社会貢献活動調査にご協力いただき誠にありがとうございます。

さて、今回の社会貢献活動調査では、骨髄バンクの仕組みや全国協議会の活動について深く学ばせていただきました。この活動のおかげで救われる命が沢山あることについて、自分も、社会や生活で困っている人に気づき、そして手を差し伸べられる人間になっていこうと思いました。また、このような活動があることを知り、理解し、今自分ができることを考えて努力していきます。これからの皆様の一層の発展をお祈り申し上げます。

敬具

30周年記念大会を開催します

全国協議会は2020年6月24日に設立30年を迎えます。これまでの皆さまのご支援・ご協力に感謝申し上げます。今年の全国骨髄バンクボランティアの集いは30周年記念大会として以下のとおり開催します。

- 日 時：2020年5月30日(土) 13時～
- 場 所：四谷区民ホール

(東京都新宿区内藤町：最寄駅「新宿御苑前」東京メトロ丸ノ内線)

医療講演やパネルディスカッションなど内容は順次お知らせします! 多くの方のご来場をお待ちしております。

各地のたより

各地のたよりを写真を添えてお寄せください。

兵庫

**骨髄バンク支援クリスマスコンサート
第三回播磨地区
高校生バンドコンテスト**



恒例の骨髄バンク支援クリスマスコンサートは3年前よりコンテスト方式で高校生のバンドコンテストを行っております。昨年は12月21日(土)に国際ソロプチミスト姫路様・姫路さくらライオンズクラブ様・神戸新聞社様・やぎ楽器様のご協力を得て開催しました。

7グループの高校生グループが参加していただきました。会場には260名ほどの来場者があり、若者の熱気で盛り上がりました。審査の間には中高年のバンド「クインテットK」の演奏で東洋大学附属姫路高等学校のダンス部が踊ってくださり、とても楽しい時間となりました。

《コンテストの結果》

1. 姫路地区骨髄バンク賞
姫路南高校「PIONERRs」
2. 国際ソロプチミスト姫路賞
琴丘高校「グランドキャニオン」
3. 姫路さくらライオンズクラブ賞
姫路工業校「Rolling Stone」
4. 神戸新聞社賞
東洋大姫路高校「Volt Face」

これを機会に、多くの若者たちに骨髄バンクを知っていただくきっかけとなればと思っております。来年も開催する予定です。

(姫路地区骨髄バンク推進センター
濱田恵子)

賛助会員の皆さま紹介 (敬称略)

【一般賛助会員】

柴山洋久=東京

徳島

**妊孕性温存支援
請願が採択**

とくしま骨髄バンクを支援する会では、県議会11月定例会に「AYA世代がん患者等の妊孕性温存治療への支援に関する請願書」を提出し、文教厚生委員会での審議を経て、議会最終日に全会一致で無事採択されました。

中四国地区のミーティングやクラウドファンディングによる基金存続をきっかけに全国でも同様の制度や仕組みが既にあることを知り、この課題に取り組みははじめました。

また、新聞記事を読まれた公明党の県議さんも非常に関心を持たれ、現状の聞き取りから請願書への署名、各政党各会派への依頼まで力強いご支援をいただきました。

当会では、患者さんに対する支援活動はほとんど行えておらず、毎年開催されている、がん患者支援イベント「リレーフォーライフ徳島」に参加する程度でしたが、このイベントを通じて主催者や医療関係者、乳がんをはじめとするがん患者さんの声を聞いたり、徳島大学病院主催のがん治療に関する講演会に参加するなど理解を深めていきました。

また、徳島県がん患者団体協議会の例会にも参加させていただき、請願に対する賛同を得て同協議会との連名で請願書を提出しました。

請願は無事採択されましたが、支援の仕組みが患者さんに寄り添ったもの

となるよう同協議会と引き続き連携を図っていきたいと思います。

(とくしま骨髄バンクを支援する会
池田良一)

大阪

**大阪初の「MAMO展」開催
ご来場をお待ちしています**



第5回いのちの繋がり展が開催されます。「MAMOのメッセージ展」は大阪では初めての展示となります。他に「春ちゃんは元気です」「パパの柿の木」が展示されます。

皆さまのお越しをお待ちしております。

- 日時：3月3日(火)～3月23日(月)
(市役所の開館時間に準ずる)
- 場所：池田市役所1階ロビー
(大阪府池田市城南1-1-1)
- 主催：届け！ 関西からいのちのバトン！

心からのご寄付に感謝申し上げます ●12月21日～1月20日(敬称略)

●一般	中川 浩 現金 16,300円	●志村大輔患者支援基金
三井化学株式会社 ちびっとワンコイン 現金 200,000円	酒井 嘉孝 現金 1,000円	築瀬 知雅子 現金 5,000円
三井化学株式会社 現金 200,000円	高橋 正春 現金 5,000円	庄子 敏子 現金 5,000円
株式会社エアネット 現金 508,100円	中村 晶子 現金 2,000円	アオヤマ ナナ 現金 1,000円
ガロのお客様 現金 5,715円	オカモト タイスケ 現金 10,000円	●募金箱
「ガロ」マイステージボックス(君和田・三橋・山口・矢野・菅野・福田・松沢・藪塚・本田・八木・稲坂) 現金 9,870円	箱根駅伝宮ノ下募金箱 現金 27,534円	株式会社 クスリのアオキ 現金 516,744円
プロバスC有志 現金 7,000円	匿名 現金 200,000円	株式会社 マルト商事 現金 301,862円
藤波 敬子 現金 10,000円	匿名 現金 3,000円	イオン九州株式会社 イオン都城店 現金 6,597円
塩谷 泰人 現金 1,000円	●白血病患者支援基金	●つながる募金
中田 慎一 現金 41,000円	匿名 現金 5,000円	現金 16,203円
山村 詔一郎 現金 100,000円	●佐藤さち子造血細胞移植患者支援基金	●ブック寄付
	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 現金 11,810円	現金 3,153円
	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 現金 5,789円	

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754
普通 5666655

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会